

集落営農へ加工・業務用タマネギを導入検討するための指標

宮城県農業・園芸総合研究所

1 取り上げた理由

土地利用型の集落営農において、麦・大豆以外の作目導入を検討している組織は多く、安定的収入が見込める加工・業務用野菜についての関心も高い。

その中で、平成19年度に行われた「加工・業務用野菜流通実態調査」において、県内業者の仕入れ量が最も多く、転作作物として導入の可能なタマネギについて現地実証と所内試験から得られた成果を用いて、集落営農への導入検討をするための指標を作成したので、参考資料とする。

2 参考資料

- 1) 作成した「加工・業務用たまねぎ 技術体系と経営指標(モデル)」は平成13年3月宮城県産業経済部発行の宮城県営農基本計画指標(第5版)に準じたもので、表計算ソフト(エクセル)を用いて組織等でタマネギの導入について、試算して検討するための指標を作成した。
- 2) ファイルは4つのシートからなり、各数値については実証試験や現地調査から得られたデータが入れられているが、使用者が自由に変更できるので、より実情に合わせた試算を行うことができる。
 - a シート1(総括・技術体系)は作物名と技術体系について、モデルとなる労働時間や使用資機材などが記載されている(図1)。
 - b シート2は収支算定表で、シート1の内容について収入および各費用等が計算されている(図2)。
 - c シート3は機械施設費等の一覧である。収支算定表(シート2)の参考資料として、機械借上げ料の右側に連動している(図3)。また、シート2の農機具費の算定にも使用できる。
 - d シート4では労働時間の集計試算ができる。図4は20ha規模の集落営農を想定し、「宮城県営農基本計画指標(第5版)」の水稻、大豆(タンレイ)、大麦とシート1によるタマネギの労働時間を集計してグラフ化したもので、労働時間の平準化などを図るための検討が行える。

3 利活用の留意点

- 1) 栽培技術については、集落営農に導入が有利な加工・業務用タマネギの機械化栽培体系(普及に移す技術第86号)に掲載されている。
- 2) タマネギの作業は、コート種子を用いた播種機と育苗時の剪葉機、半自動移植機(2条植え)および掘取・収穫機を利用した機械化体系および、それに沿った農薬が規定値に設定されている。
- 3) 作成したファイルは200KB程度の大きさで、農業・園芸総合研究所情報経営部より入手可能。
[「加工・業務用たまねぎ 技術体系と経営指標\(モデル\)」](#)

(問い合わせ先：農業・園芸総合研究所情報経営部 電話022-383-8119)

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

集落営農における実需者ニーズに対応した加工・業務用野菜生産技術の確立（平成20～21年度）

2) 参考データ

1 作物名	たまねぎ(加工・業務用, 露地)
2 適用地域	県内全域(一部を除く)
3 目標収量	4,500 kg/10a
4 栽培品種	もみじ3号
5 作型の前提条件	○想定規模 60 a ○労働力 10.0 ○基幹農業従事者 (2名) ○補助従事者 (4名) ○販売単価 50 円/kg ○副産物収量等

※1 コート種子を用いた場合は種からセルトレイ育苗を行い、移植後は移植後1週間程度は保護する体系とする。
※2 専用機械等、50a規模での共同利用(JAの機械所有者等)を想定。
※3 機械等よって異なるものとした。

○作型・作業体系の特徴等
機械化一貫体系 セルトレイ育苗

6 作型と労働時間		凡例: ○ 概算, — 首苗期間, ◎ 定植, — 生育期間, — 収穫期間																		
月	旬	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計						
作型	上																			
	中																			
労働時間				5	5.5	5	6	3	4	2.5	3	20	12	0.5	0.5	4	6.5	5	5	107.0

7 技術体系		作業名								
項目	種類	育苗	本塚づくり	定植	栽培管理	病害虫防除	収穫・選別	選別・出荷	後片づけ	合計
作業時期		8月下旬～9月上旬	8月下旬～10月下旬	10月上旬	10月下旬～11月上旬	10月下旬～5月下旬	4月中旬～6月中旬	6月下旬～7月中旬	8月上旬～下旬	7月下旬～8月上旬
作業内容・時間		・種選別 ・育苗管理(灌水) ・育苗管理(剪草) 3回	0・増肥散布 0.8・施肥 0.2・耕起 0.5・作業	0.5・定植 11.5・施肥 2・除草前散布 19・除草その他	2.5 2.5 0.5	2 2 19	2.5 2.5 2.5 2.5	2 1.5 4.5	4.5 5	4
10 使用資材		セルトレイ 105枚 育苗箱 105枚 農土 6袋 農土 2袋 コート種子 3万粒	増肥 8kg 富士石灰 2kg MMB重合燻化土 14 5kg	増肥 120kg MMB重合燻化土 100kg	燻安加里5804号 50kg アミノ酸液 300ml アミノ酸液 200ml	アミノ酸液 300ml アミノ酸液 200ml	アミノ酸液 300ml アミノ酸液 200ml アミノ酸液 300ml アミノ酸液 150ml	アミノ酸液 300ml アミノ酸液 200ml	アミノ酸液 300ml アミノ酸液 200ml	4
使用機械施設		播種機(能力300㎡/分)	1.5 低播種機	0.8 軽トラ	4 軽トラ	1 動力噴霧機 2.3 管理作業機	2 動力噴霧機 1.5 低播種機	2 軽トラ	2 軽トラ	2 軽トラ
労働時間		5 0.5 1.5	2 0.5 1.0	2 2.6 4.0	5 2.3 11.5	1 25.0 25.0	2 1.3 2.5	2 4.8 9.5	2 2.0 4.0	1 4.0 107.0

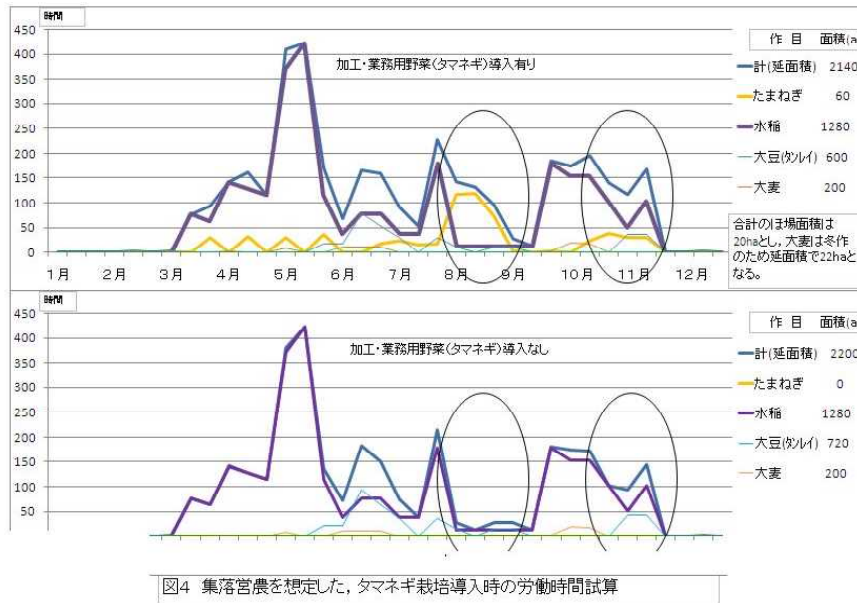
図1 シート1 総括・技術体系

8 収支算定表		内訳	
項目	金額	金額	金額
収入	4,500	4,500	4,500
支出	3,500	3,500	3,500
収支差	1,000	1,000	1,000

図2 シート2 収支算定表

9 機械・施設費等		内訳	
項目	金額	金額	金額
機械	1,000	1,000	1,000
施設	500	500	500
その他	500	500	500
合計	2,000	2,000	2,000

図3 シート3 機械・施設費等



3) 発表論文等

a 関連する普及に移す技術

a) 「加工・業務用たまねぎとキャベツの県内実需者ニーズ」 (第84号参考資料)

4) 共同研究機関

なし